

## 郷土資料館だより

Vol.39 No.3

2017.3.15

## 企画展「三四呂人形 これまでと、これから」開催中

- 開催期間 平成29年2月4日(土)～5月28日(日)  
一部展示替えあり。前期3/26まで、後期3/28から

三四呂人形とは昭和初期に活躍した三島出身の人形作家、野口三四郎<sup>のぐちさんしろう</sup>による紙の張子人形で、当時、たいへん高い評価を得ていました。今回の企画展では現存する三四呂人形をなるべくたくさん紹介すること、そして、三島商工会議所による3Dデータ化の技術を使った複製品の作製など最近の三四呂人形をとりまく状況を紹介しますこと、の2点をねらいとした展示としています。

三四呂人形は子どもや家族、動物を題材にしたものが多く(写真①～③)、また、張子に使われている紙の枚数が少なく人形がとても軽いので動きのある情景を描くことができる(写真②③)といった特長があります。現存する作品のほとんどはこれまでに発行している図録(平成16年度企画展図録『三四呂人形』等)で紹介されていますが、今回はそこで紹介されていない作品や木型について紹介します。



写真①水辺興談(個人蔵)



②春日庭(個人蔵)



③影ふみ(個人蔵)

## (1)三四呂人形

## ①強打



## ②水辺小興(個人蔵)



①「強打」は市内の小学校から郷土資料館に寄贈されたものです。図録(平成16年版)では「写真に残る三四呂人形」中で現存していないもののひとつとして紹介されているものです。

②「水辺小興」は「水辺興談」を構成する2体のうちのひとつと同じポーズですが、専用の箱に入っており、これだけで独立した作品となっています。見た目はよく似ていますが、大きさが若干異なり(水辺興談10.2cm、水辺小興9.7cm)重量は水辺小興の方が重くなっています(水辺興談13g、水辺小興45g)。水辺小興の重量は複数制作されている「メリーさん」や「迎春」とほぼ同じであり、販売を想定して量産されたものである可能性があります。また、水辺小興の方が重量のある(つまり、張子の紙が厚い)にもかかわらず背が低いことから、両者は別の木型から作られているようです。

次回企画展 前期6月3日(土)～8月6日(日)・後期8月8日(火)～9月10日(日)

## 企画展「三島のたからもの」

三島市指定の文化財を一挙に展示紹介します。  
梅御殿の杉戸絵、三島宿を描いた風俗絵屏風、  
箱根田遺跡出土の人面墨書土器など

③メリーさん(個人蔵)



三四呂人形の作品の中で最多の13体を郷土資料館で把握しています。よくみると花柄が少しずつ異なっているのに気づきます。

(2)水彩画

①たき火(個人蔵)



②稲刈り(個人蔵)



所蔵者は三四郎の親戚にあたる方です。大きさは①14.4cm×18.6cm、②14.1cm×18.9cmで三四郎の描いた他の水彩画同様それほど大きなものではありません。

③風景画(個人蔵)

三四郎の落款はありませんが、所蔵者の家に三四郎作として伝わっているものです。  
(27.5cm×37.0cm)



## (3)木型(個人蔵)

現存する木型は約70組が確認されています。今回はその一部を紹介します。また、その木型から作られたと思われる作品(推定の域を出ないものも含まれます。)がある場合はあわせて紹介していきます。

## ①(朝鮮)牛追ふ児



## 牛追い



## ②少年と四季(夏)



## ③少年と四季(秋)



雪だるまの前で手に息を掛けている冬の情景を描いた張子の作品が残っていますが、夏と秋をテーマにしたものも作られていたようです。

## ④マリーさん(メリーさん)



## ⑤朝鮮の舞姿



## 官伎(個人蔵)



## ⑥黒髪



## 黒髪(個人蔵)



木型に和紙が貼られており、張子の制作途中のものです。木型に和紙を貼った後、背中や側面等の目立たない場所に切れ込みを入れて中の木型を抜き取り、空洞の紙張子を作ります。

## 三四呂人形のその後—複製三四呂人形とストラップ人形

野口三四郎が制作した三四呂人形は、三四郎が亡くなった昭和12年(1937)で制作が終了します。これを惜しんだ人々によるその後の三四呂人形について紹介します。(文中の敬称略)

### 1 複製三四呂人形—伊豆のおみやげ—

昭和30年代(1955～)、「三島母親の会」に、内職として三四呂人形の複製品を作り三島の土産物として売るように勧めたのは大岡博(歌人、詩人大岡信の父)でした。大岡は三四郎の近所に住む長年の友人で、彼の才能が失われたことを惜しんでいました。これを受け、会の代表村松美与子や四条悦子たちが複製三四呂人形の製作をはじめます。張子の技法は高度な技術が必要なため、素焼きの型を大量に製造し、そのうえに和紙を貼り、彩色を施すことにしました。

初めの頃、製品は三四郎の三四呂人形とはかけ離れたものでした。そこへ四条から依頼を受け、人形制作の心得のある青木美稚子すいへんきょうだんが参加します。複製「水辺興談」の原型粘土型を制作したのは青木でした。また、絵付けの指導も行い、特に顔の表情には注意を払うよう教えました。こうして製品の質も向上し、複製三四呂人形は伊豆土産として、昭和30年代から60年代の間広く人気を博します。

三島駅前や三嶋大社の土産物屋のほか伊豆長岡・修善寺・箱根の温泉街でも販売されました。また昭和50年代には、三島市を訪問する賓客へのお土産としてこの複製三四呂人形が贈られていました。

「母親の会」の方々が高齢化し、亡くなる方もおり、平成6年(1994)を最後に複製三四呂人形も製造されなくなります。作られた製品は水辺興談、里子、桃子、椿みかん(蜜柑)、馬子などでした。



複製三四呂人形

### 2 みちこ人形

青木美稚子(1921～2014)は少女の頃から人形が大好きでした。長じて人形作家の野口園生そのおに入門し5年間人形制作の指導を受けています。「三島母親の会」には2年ほど関わり、複製三四呂人形の原型制作や絵付け仕上げの指導をしています。40歳の頃から、複製三四呂人形の製法を用いて創作人形「みちこ人形」を作り始めます。



みちこ人形「伊豆の踊り子」「ねんね」

着物のたおやかな「伊豆の踊り子」、孫たちをモデルにした幼児の寝姿の「ねんね」など22種類の人形が作られました。三島駅前や修善寺の土産物屋で販売されていましたが、美稚子没後は、ほとんど店頭で販売されなくなりました。晩年の美稚子は、嫁の青木佳江(長泉町下土狩)と「みちこ人形」の制作を続け、現在は佳江が「みちこ人形」の制作を継承しています。

### 3 ストラップ人形

三島商工会議所は平成15年頃から三四呂人形の復元と土産物作りの研究に取り組みはじめました。また同じ頃、女性団体「北上くらしのサロン」では三四呂人形の勉強会と複製三四呂人形の製作を何回か行い、復活に向けてPR活動を行ってきました。平成28年には、商工会議所と沼津工業高等専門学校の共同研究により3Dデータ化の技術を使って「里子」の携帯ストラップを製造し、販売が始まりました。

三四郎没後80年を経て、再び三四呂人形が特産品として注目を集めています。

## 三島の歴史とジオポイント・9

### —ジオサイト三石神社—

三石神社(広小路町13-1)は東海道・旧西見附脇の火除地(火事の延焼を防ぐ空き地)内に鎮座するお稲荷さんです。源兵衛川のほとり、三ツ石と呼ばれる巨石の上に造営されました。

神社の境内には直径1m大の巨石が顔を出しています。これは湧水河川・四ノ宮川によって表層部が浸食され、直下に堆積している御殿場泥流層(約2900年前に発生した富士山東斜面の大崩壊に伴う超巨大土石流堆積物)が露出しているからです。

神社の東側を流れる源兵衛川は、南北朝の頃に四ノ宮川を改修し、河水を中郷地区の水田へ導くために御殿場泥流層を掘り込んで作られた人工河川です。泥流中の巨石は排除されなかったため、現在も河床に残っています。

三島の湧水河川は御殿場泥流層を浸食して流れているため、河川敷には大石が多数認められます。これが市街地を流れる小河川の特徴にもなっています。

三石神社は「伊豆石」の展示場のようなものです。まず古い石鳥居(明治32年<1899>設置)があります。石材は長岡凝灰岩上部層製(数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰や火山砂が固結し、熱水の影響を受けやや変色しているもの。産地は伊豆の国市・北江間、通称・江間石)です。昭和初期の三島や田方郡内の主だった神社の鳥居は同材の石鳥居が多かったですが、大部分は昭和5年(1930)の北伊豆地震で倒壊し、その残骸が各地の神社境内に残されています。三石神社の石鳥居は奇跡的に倒壊を免れました。

古い石燈籠が2基あります。社殿に向かって左側の燈籠は、天保11年(1840)5月に設置された玄武岩質の火山岩製ですが、火袋だけは長岡凝灰岩上部層製で作直してあります。北伊豆地震で倒れ火袋は粉碎したのでしょうか。設置目的は燈籠の形や彫り込みの内容からすると、純粹な奉納燈籠ではなく、街道の常夜燈も兼ねていたようです。右側の燈籠も同じ年に設置されていますが一回り大きいです。設置目的は常夜燈です。神社入口の街道に置かれていたと思われます。これを作った石工は木町の北原平吉です。息子の常七は三嶋大社の大鳥居を手掛けています。この燈籠の火袋も長岡凝灰岩中部層(上部層よりも熱水の影響を強く受け緑色を呈する。伊豆の国市古奈～壱ノ上の石切り場産)で作直してあります。北伊豆地震で倒れたのでしょうか。

本殿の基礎を見ると、下部は三島溶岩(約1万年前の富士山噴火に伴い流出した玄武岩。通称小浜石、産地は三島)製です。その上に長岡凝灰岩上部層製の基礎石がきれいに並べられ、社殿が乗っています。

神社脇の源兵衛川には石製の用水樋が懸かっています。石材は大井凝灰角礫岩(数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山角礫岩や火山灰が固結したもの。産地は沼津市大平地区)が用いられています。この石材は風化や火災に強いため、三島市内に多数残っている石蔵にも使用されています。

市街地に鎮座する三石神社は、三島の地史と北伊豆地域の石材を手軽に観察できる身近なジオサイトです。三島市のために有効活用したいものです。



境内に露出する御殿場泥流の大石



三石神社



源兵衛川の大石群と用水樋

## 富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「駿東・北伊豆の戦国時代」 三島展「北条五代と山中城」報告

- 開催期間 平成28年10月15日(土)～平成29年1月22日(日)
  - 会場 郷土資料館1階企画展示室 ●展示資料数 104点 ●入場者数 22,871人
  - 関連事業 3館をめぐるスタンプラリー 景品交換者 197人
- 展示解説(①11/20(日)、②11/23(土) 各2回) 参加者 合計49人



戦国大名北条氏の支配を受ける領域であった三島には、本拠地小田原の西の防衛を担う地として箱根西麓に山中城が築られました。今回の企画展では、その山中城で起きた戦いに特に焦点をあて、古文書と出土遺物を多数展示しました。

同時期にPCブラウザ・スマホ向けゲーム「刀剣乱舞」と三島市とのコラボレーション企画として、佐野美術館・三嶋大社宝物館・郷土資料館の3館をめぐるオリジナルクリアファイルを手に入れるスタンプラリーを実施していたため、県内外からたくさんの“刀剣女子”の皆さんが来館され、当企画展を一緒に見学していかれました。「北条氏は知っていたけど、三島に縁があるとは知らなかった」「出土品などを見るととても生々しくて、戦いは本当はとても恐ろしいものだった」といった声を寄せていただき、展示品を通して様々な感想を持っていただけたようでした。

## 企画展関連講演会「小田原北条氏と駿豆国境地域」開催報告

- 開催日 平成28年11月13日(日)13:45～16:00
- 講師 駿河台大学教授 黒田基樹先生
- 会場 三島市民生涯学習センター3階 講義室
- 参加者 118人

上記企画展の開催に合わせ、戦国時代史研究で著名な黒田基樹先生をお迎えし、伊勢宗瑞(北条早雲)から始まる戦国大名北条氏が、三島を含む駿河と伊豆の国境地域とどのように関わってくるのか講演していただきました。

当日は市内外より幅広い年齢層の参加があり、講演会終了後には「北条氏への興味が増した」「これを機会に勉強してみたい」といった声が多数寄せられ、三島周辺と北条氏の歴史について、参加された方々はより一層関心をもたれたようでした。



## そよかぜ学習



- 学習内容 体験学習 昔の道具の体験  
館内見学 2階常設展示室の解説
- 受け入れ学校数 市内13校・市外7校

今年も市内や周辺市町の小学3年生の課外授業「そよかぜ学習」の受け入れを実施しました。1階多目的室で石臼・足踏み式ミシン・棹ばかりの体験、2階常設展示室で紺屋の染色工程、自在鉤やフネの使用方法等の説明を行い、今から50～100年前の「昔の暮らし」に触れてもらいました。体験学習では「またやりたい!」との声が聞かれ、展示解説も熱心に聞き入っている様子でした。

## 郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成28年11月から平成29年2月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内容	参加者
11月19日(土)	ミニチュアうどん作り	製麺機 <small>せいめんき</small> を使って小麦粘土でミニチュアうどんを作る	41人
11月26日(土)	楽寿園の自然	溶岩・化石の観察、どんぐり・葉っぱで遊ぶ	80人
12月10日(土)	ワラ細工 <small>さいく</small>	ワラで正月飾りを作る	60人
1月7日(土)	駿河凧 <small>するがだこ</small> を作ろう	駿河凧を作る(申込み制)	12人
1月21日(土)	リリアン編み <small>あ</small> でトリを作ろう	リリアン編みで2017年の干支「トリ」を作る(申込み制)	10人
2月18日(土)	昔のどうぐ	石臼 <small>いしうす</small> 、鯉節削り <small>かつおぶし</small> 、和菓子の木型などの体験	48人
2月23日(木)	遊んで学ぼう富士山デー	富士山の溶岩観察、富士山にちなんだカルタ	12人



駿河凧を作ろう



リリアン編みでトリを作ろう

ワラ細工



平成29年度も5月から様々な郷土教室を開催しますので、ぜひご参加ください！！

## 生涯学習功労者表彰受賞のお知らせ 三島古文書読習会と迫田信行郷土資料館運営協議会委員長

平成29年2月4日三島市民生涯学習センターにて、三島古文書読習会と迫田信行郷土資料館運営協議会委員長が、生涯学習功労者として表彰されました。

三島古文書読習会は、設立から43年にわたり、郷土資料館所蔵の古文書の解説奉仕活動を継続して行い、三島の歴史解明に大きな功績を残しています。

また、迫田信行氏は、三島市郷土資料館運営協議会委員をはじめ多くの委員を歴任の傍ら、長く生涯学習活動の講師として指導に当たられたことが評価されたものです。

心よりお祝い申し上げます。



三島古文書読習会のみなさん

## 寄贈資料の紹介

平成28年12月から平成29年2月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。(寄贈者の方の希望により個人名を伏せて表記しています。)

寄贈者	資料名	点数
個人 (神奈川県)	小松宮彰仁親王書	1点
個人 (東京都)	写真 (県中等青年学校行軍箱根教練)	1点

## 刊行図書のご案内

「武田善政作 伊豆国全図 三島地域資料研究会史料集 1」 平成29年3月31日刊行 (頒布価格未定)

「伊豆国全図」は江戸時代寛政年間に作製された伊豆国全体を描いた絵図で、縦297 cm、横179 cmにおよぶ大型の資料です。大型の資料のため、これまであまり多くの研究者に活用されることがありませんでしたが、同時期に秋山富南によって編纂された伊豆国の地誌『豆州志稿』とともに郷土研究に欠かせない基礎資料です。

(写真:三嶋大社～下田街道部分)



「安久 杉山家文書目録 1」 平成29年3月31日刊行 (頒布価格未定)

杉山家は江戸時代の安久村の名主、明治時代の戸長や中郷村長などを勤めていました。また、和歌などの文化的な活動にも精力的に関わっていました。この杉山家に残る江戸時代から明治時代を中心とした古文書を収録した目録です。

「三島宿関係史料集 8 (三島傳記、諸用向見合)」 平成29年3月31日刊行 (頒布価格未定)

当館所蔵資料の中から『三島傳記』(花島家文書)と『諸用向見合』(三島問屋場・町役場文書)を、読みやすいように活字化した史料集です。近世交通史、地域史研究には必携の一冊です。

「三島市郷土資料館研究報告 9」 平成29年3月31日刊行 (頒布価格未定)

わたしたちの郷土・三島をさまざまな角度からふか～く掘り下げた一冊です。展示や講座だけでは伝えきれない、日ごろの研究成果をどど～んと発表しています。ぜひご一読を!

### 【内容】

伊豆病院の設立とその意義—明治初期における地方の医療行政—

桜井祥行

[資料紹介]中郷の明治の教育—明治十五年の財政状況—

福田淑子

[資料紹介]伊豆国分寺所蔵資料について—北山本門寺末蓮行寺の近世・近現代—

付伊豆国分寺資料目録

柿島綾子

[報告]藤秀館製糸場小史

笹山曜子

文政年間初期における三島宿拝借金について

平林研治

「ジオツアー三島宿」の成果(5)—三島宿の石燈籠—

増島 淳

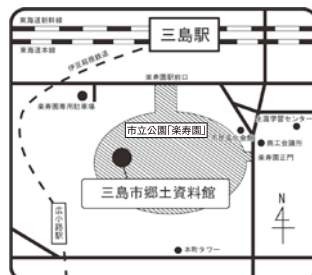
## 郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後4時30分(11月～3月)  
午前9時～午後5時(4月～10月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、  
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途  
300円がかかります。15歳未満は無料、  
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

## 郷土資料館だより

Vol.39 No.3(第117号)

発行日 平成29年3月15日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>